

# マテラの洞窟教会壁画

## Mural Paintings in the Cave Churches in Matera

宮下孝晴・宮下睦代

Takaharu MIYASHITA\* and Mutsuyo MIYASHITA\*\*

### 1. はじめに

1993年に世界文化遺産に登録されたマテラ(サッシ地区/Sassi)は、これまでも何回か訪れて洞窟教会に残された壁画の調査を行っており、すでに『研究調査レポート Vol.1, Vol.2』に整理番号を付してまとめている。しかし、今回の調査チームにはまだ訪れたことのない学生たちも多く、サッシ地区に散在する洞窟教会は南イタリアの洞窟教会研究の基本でもあるため、今回は9月の本調査期間中にメンバー全員で視察することにした。調査した3年前の状態と比較できたこと、新たな目での発見などもあり、以前の報告と重複する部分もあるが、あらためて記録を整理することにした。

### 2. 洞窟住居群マテラについて

バジリカータ州の州都ポテンツァから東に60 kmに位置するマテラは人口5万人の小都市で、グラヴィーナ峡谷に沿った岩山や峡谷に洞窟を穿って住居にした特異な洞窟住居群(都市)として、1993年に世界文化遺産に登録されている。バジリカータ州全土の46.8%が山、45.1%が丘陵、平坦な土地はわずかに8.1%という統計が示す通り、人々は厳しい風土の中で生きてきたことがわかる。峡谷の自然の地形に逆らうことなく、幾世紀にもわたり、サッシ地区の岩肌を穿って建設された住居群が想像を絶する複雑さで密集しているが、自然の洞窟を利用したと思われる洞窟住居もある。その起源は旧石器時代に遡るとはいえ、洞窟住居群サッシ地区の発展は8世紀から13世紀にかけて、東方(ビザンティン帝国、シリア、パレスチナ、カッパドキア、シチリア)からイコノクラスム(8-9世紀に吹き荒れたビザンティン帝国内での聖画像破壊運動)や後には強大化したイスラム勢力から逃れてきたキリスト教修道士たちが、130以上の洞窟住居を構えて住み着いたことに由来する。

峡谷や岩山は凝灰岩のところと石灰岩のところがあり、市街地の中に突き出たような岩塊も見られる。それがこの地区をサッシ地区と呼ぶ由来のようである。サッソ(sasso)はイタリア語で岩山や岩壁、岩や石を意味し、サッシはその複数形である。グラヴィーナ峡谷がつくる複雑な地形は3つに分けられ、現在の大聖堂が建つ高台のチヴィタ地区、北側に広がるサッソ・バリサーノ地区、南側がサッソ・カヴェオーゾ地区と呼ばれている。サッシ地区には凝灰岩の崖に洞窟を掘り抜いて建設した教会が、大小合わせて130以上あると言われる。今回はサッソ・カヴェオーゾ地区にあ

る、堂内に中世壁画の描かれている以下の4教会を視察した。

### 3. 視察した4つの洞窟教会

#### (1) コンヴィチーニオ・ディ・サンタントーニオ教会 (Convicinio di S. Antonio)

サッソ・カヴェオーゾ地区の南側の端に位置する。洞窟を掘り進めて、結果としては4つの教会が連結して1つの複合建築を構成している。現在では、平面図の右から順に第1教会の「テンベ・カドゥーテ」(あるいは「サン・ブリーモ教会」)、第2の「サンテリージョ教会」(あるいは「アンヌンツィアータ教会」)、第3の「サン・ドナート教会」、第4の「サンタントーニオ教会」と呼ばれている。17世紀まではワイン製造所としてワイン作りのためのブドウの圧搾やワインの貯蔵庫として使われていたため、当初の原形も失われているばかりか、教会の建設年代も不明である。

教会内の壁面の多くは12-13世紀に壁画装飾されたと考えられるが、後世に書き換えられた部分が多いだけでなく、壁画の保存状態もきわめて悪い。比較的保存状態のよい壁画は、第2のサンテリージョ教会に描かれている「デエシス」(14世紀)、第3のサン・ドナート教会の「聖女ドロテア」(14世紀)ぐらいであろうか。第4のサンタントーニオ教会の中央の柱に描かれている「聖(大)アントニウス」(15世紀)の壁画は、今回その傷み具合が特に気になった。常に入口や窓が開放されていることが壁画の劣化を早めているように思われる。2011年に訪れた時には1990年に撮影した写真と比べて非常に劣化が進んだと感じたが、今回撮影した写真と2011年のものを比較してみると、剥落や新たに吹き出した塩の結晶で顔や手が覆われてしまったため、ほとんど画像を判読できない状態である。[pp.10-11の写真およびp.8の教会平面図を参照]

#### (2) サンタ・ルチア・アッレ・マルヴェ教会 (Chiesa di S. Lucia alle Malve)

サン・ビエトロ・カヴェオーゾ教会から峡谷側に回り込んだ南側に位置する。10-11世紀に建設され、マテラで最初のベネディクト会女子修道院として1525年まで使われていた。創建当初は(シチリア島カタニーヤ生まれの)聖女アーガタに捧げられた教会であったが、のちに(同じシチリア島シラクサの)聖女ルチアに捧げられることになり、入口アーチの上にも聖女ルチア(ラテン語のルキアは光の意)の象徴的持物である「盆にのせた眼」

\* フレスコ壁画研究センター長 人間社会研究域 歴史言語文化学系教授

\*\* フレスコ壁画研究センター客員研究員

のレリーフが刻まれている。なお、サンタ・ルチア・アッレ・マルヴェ教会の「マルヴェ」は紫がかったピンク色の小さな花の咲く植物の名前で、このあたり一帯に咲き乱れており、修道女たちが薬草として人々に与えていたため、「マルヴェの花咲くところの聖女ルチア教会」の名で呼ばれた。

教会堂内は、3つの後陣空間がイコノスタシスで仕切られた3廊式プランの教会を目指して洞窟を掘り進めた形跡がうかがわれるが、完全な形式を整えてはいない。歴史的には右側廊のみが地区教会として1980年代まで存続し、現在でも礼拝堂として使われている。他の空間はやがて住宅として使われることになり、それがサッシ地区の再整備が開始される1950年代まで続いた。

南側の側壁を飾る細身の8連ニッチ(壁龕)には13世紀後半に描かれた「授乳の聖母」や「大天使ミカエル」の壁画がよくのこっている。左側廊と身廊を分ける隔壁柱には「聖グレゴリウス」(13世紀)が描かれ、右側廊と身廊を分ける隔壁柱にも「聖ベネディクトゥス」(14世紀)、それと向かい合うように(妹の)「聖女スコラスティカ」が描かれている。右側廊の壁面には14世紀初頭と思われる「十字架降下」と「4聖人に囲まれた聖母の戴冠」が上下に描かれている。そのほかに16世紀の「聖女ルチア」、17世紀の「聖母子」が現存し、歴史の移り変わりとともに壁画もまた描き替えられてきたことがわかる。新たな漆喰を塗り重ねての描き替えや漆喰による塗りつぶし、あるいは後世の加筆修正を含む修復のために創建当時の壁画装飾全体を推測することは困難であるが、いくつかの特色ある壁画断片は卓抜な描画技術によって描かれたことを物語っており、マテーラ壁画史の系譜を構成する上で基準となることは確かである。

壁画の保存状態がよいのは、入口に近い左右の側壁および隔壁柱に描かれた部分である。奥の後陣部分に向かうにしたがい緑色をした苔の繁殖が広がって、壁画はまったく消失している。壁面の状態は季節によって変化しており、1月、9月に訪れた時は奥の壁面は少し湿っているという感じであったが、6月に訪れた際は非常に湿度が高く、壁面の上を水が流れていて驚いた。[pp.12-13の写真およびp.8の教会平面図を参照]

### (3) マドンナ・デ・イドゥリス教会 (Chiesa della Madonna de Idris)

サッソ・カヴェオーゾ地区に突き出たように高くそびえるモンテッローネと呼ばれる岩山を掘り抜いた教会で、サン・ピエトロ・カヴェオーゾ教会広場の右上に位置する。この教会へはブオツィ通りから階段や坂道をジグザグに上ってもいいし、サンタ・ルチア・アッレ・マルヴェ教会わきの細い路地から回り込んでも行ける。

モンテッローネと呼ばれる岩山をこちら側からと向こう側から掘って、それぞれ別の教会が2つ建設されていたが、やがてトンネルで連結して岩山を貫通させた。小さな鐘塔がファサード右上にあるところから入った手前の教会がマドンナ・デ・イドゥリス教会で、岩山を掘り抜いた洞窟部分だけでなく、部分的に凝灰岩の切石を積み上げて建設された2つの空間で構成されている。

岩山の北側を掘ったマドンナ・デ・イドゥリス教会のイドゥリスはギリシア語の「水」に由来する。雨水を貯水槽に集めて利用していた洞窟住居群のマテーラでは、岩山の天高きところに水(雨乞い)の聖母マリアを祀り、干天に慈雨を祈ったのではないかと

想像する。バロック様式の祭壇(1804)上の壁面には、祭壇画として17世紀に描かれた「聖母子」と「角の間に磔刑像が輝く白い牡鹿を見て改宗した(2世紀のローマ将校)聖エウスタキウス」が見られるが、その保存状況はきわめて悪い。なお、この伝説上の聖人、聖エウスタキウスはマテーラの守護聖人である。

### (4) サン・ジョヴァンニ・イン・モンテッローネ教会 (Chiesa di S. Giovanni in Monterrone)

マドンナ・デ・イドゥリス教会の主祭壇左手から伸びる細いトンネルを抜けたところがサン・ジョヴァンニ・イン・モンテッローネ教会で、1段高くなった内陣と広い後陣(東側)がのこっているが、当初の設計プランはわからない。サン・ジョヴァンニ(洗礼者ヨハネ)の名前が示すように、堂内に「キリストの洗礼」が描かれているばかりか、洗礼盤として利用されたいらしい石臼のような刳型をした石盤があり、石畳でしっかり舗床されていることから、ここが洗礼堂として使用されていた可能性は高いと思われる。

通路を入ってすぐの左壁面には「(上半身の)パントクラトールのキリスト」(11-12世紀)、その反対側に「大天使ミカエル」と「聖ニコラウス」(13世紀)が描かれている。奥の壁面には「受胎告知」(12世紀)、「聖ヤコブ(大)」と「聖ペテロ」(13世紀)、「聖ヒエロニムス」「聖女アポロニア」「聖イドゥリス」などがよくのこっている。おそらくは連結トンネルのせいで堂内の通気性がよいと、壁面にはカビや苔もまったく生えず、壁画の保存状態は一様に安定していると言える。

中でも「聖ヤコブ(大)」と「聖ペテロ」(13世紀)の描写はすばらしく、グラヴィーナ・イン・プーリアで調査を行ったサン・ヴィート・ヴェッキオ教会の左側壁に描かれた聖人像を彷彿とさせる。顔や手足の表現だけでなく、背景なども非常によく似ており、同一画家ないしは同系統の画家によって描かれた可能性が高いと考えられる。各聖人は(同じ柱頭装飾のある)螺旋模様のある細い支柱で仕切られた連続半円アーチのニッチ内に描かれている。各聖人の背景も横3段に分割(青みがかった黒、黄色、青みがかった黒)されている点、連続アーチを支えるレンガ積みの壁、円光の周囲や衣服の縁取り装飾に白点模様を多用していることなど、両者の表現上には類似以上のものがある。[p.14の写真およびp.8の教会平面図を参照]

なお、2011年に訪れた時には、マドンナ・デ・イドゥリス教会からサン・ジョヴァンニ・イン・モンテッローネ教会へは、主祭壇左手から伸びる細く真つ暗な連結トンネルを手探りで抜けねばならず、教会内の壁画も懐中電灯を頼りに観察せねばならなかったが、今回は照明設備が整い、明るい中で観察・鑑賞することができた。

### 4. マテーラの洞窟教会壁画と直結するキリスト教図像の系譜

本論の冒頭で、「サッシ地区に散在する洞窟教会は南イタリアの洞窟教会研究の基本でもある」と書いたが、前述したサン・ジョヴァンニ・イン・モンテッローネ教会の壁画とグラヴィーナ・イン・プーリアのサン・ヴィート・ヴェッキオ教会に描かれていた壁画(現在はエットーレ・ボマリチ・サントーマジ財団博物館に保存)の類似性を指摘したついでに、マテーラの壁画と強い類似性を示す南イタリアの壁画群を指摘しておきたい。

今回は視察できなかったが、以前に調査した折に注目したマテ  
ーラ大聖堂の「聖母子」と今回の視察であらためて確認できたオ  
ートラント大聖堂の「聖母子」、および一昨年の視察で調査したマ  
ッサーフラのマドンナ・デッラ・スカラ聖所記念堂の「聖母子」3  
点についての類似性のことである。

- ① マテラ大聖堂の「ブルーナの聖母」(Madonna della Bruna) :  
左側廊の最初の祭壇
- ② オートラント大聖堂の「聖母子」: 右側廊奥の左壁 (cf. 本誌  
p.3)
- ③ マッサーフラのマドンナ・デッラ・スカラ聖所記念堂の「聖母  
子」: 現在は主祭壇を飾るが本来は洞窟教会の壁画 (cf. 2011 年度  
研究調査レポート Vol.2 p.10)

マテラ大聖堂の「ブルーナの聖母」は、もともとファサード  
内側に描かれていたが、1576 年に壁面から剥がされた。1984 年に  
バジリカータ州文化財監督局によって徹底的な修復が行われた際、  
後世の加筆の下から発見された。リナルド・ダ・ターラントの筆  
に帰され、Grelle Jusco によって 1270 年代の作とされているもの  
である。(Lorenzo Rota, Franco Conese, Mario Tommaselli, "MATERA  
Storia di una città", Ed. BMG Matera, 1990, p.197) また、修復に際し  
て行われた分析調査では、金箔と青色顔料のアズライトが検出さ  
れた。

作者あるいは工房の帰属と制作年が定説となっているかどうか  
は不明であるが、13 世紀のビザンティン様式に属する画家の手に  
よる作品であることは疑う余地はない。信者の方に向けられた慈  
愛に満ちた聖母マリアの視線、U 字型に襟元まで巻き込んだ聖母  
のマント、左手に巻物、右手の指 2 本を立てて祝福する幼子イエ  
スなどに表現上の特徴を認めることができるが、これらの諸点を  
他の 2 点の「聖母子」にも同様に認めることができるのである。

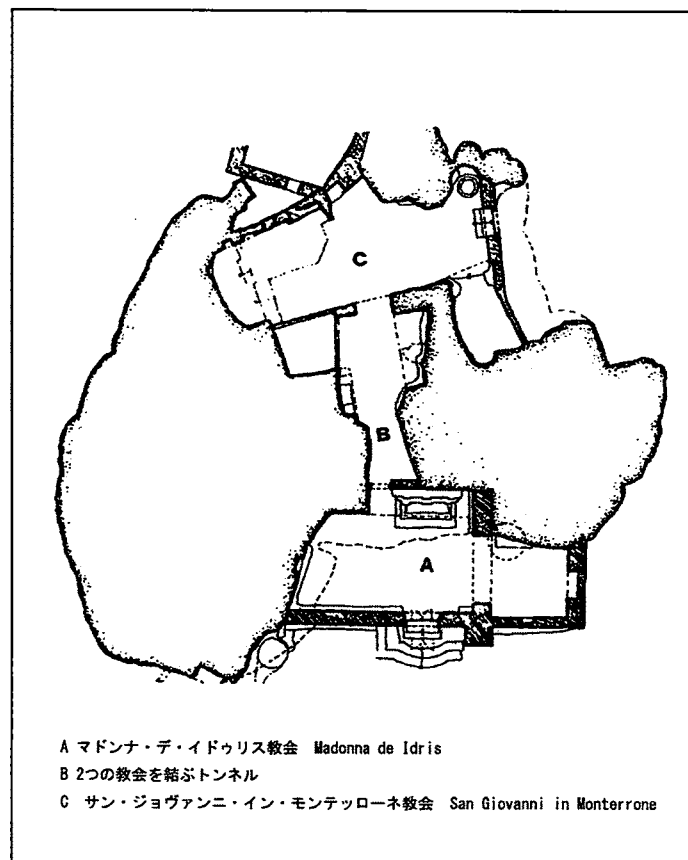
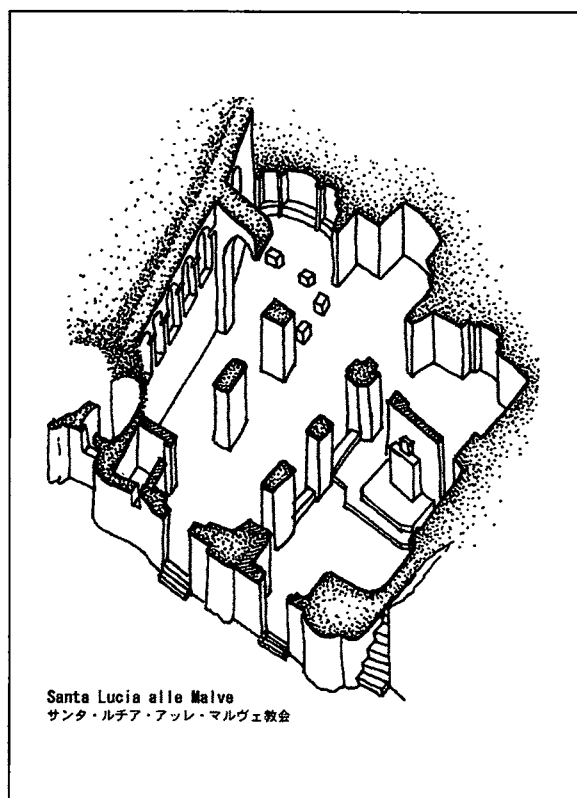
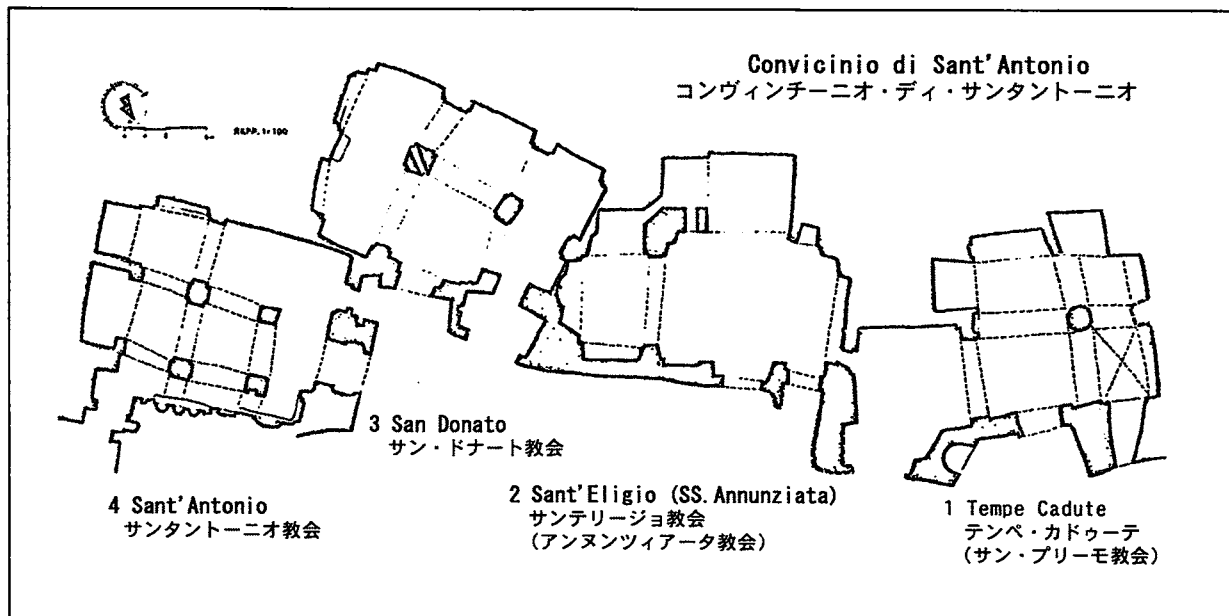
[p.15 の写真参照] なお、祝福には、ラテン式(親指と人差し指  
と中指の 3 本をのばし、薬指と小指を掌の方へ曲げる、ときに親  
指を曲げて薬指と接することがある)とギリシア式(小指ものをば  
す)がある。

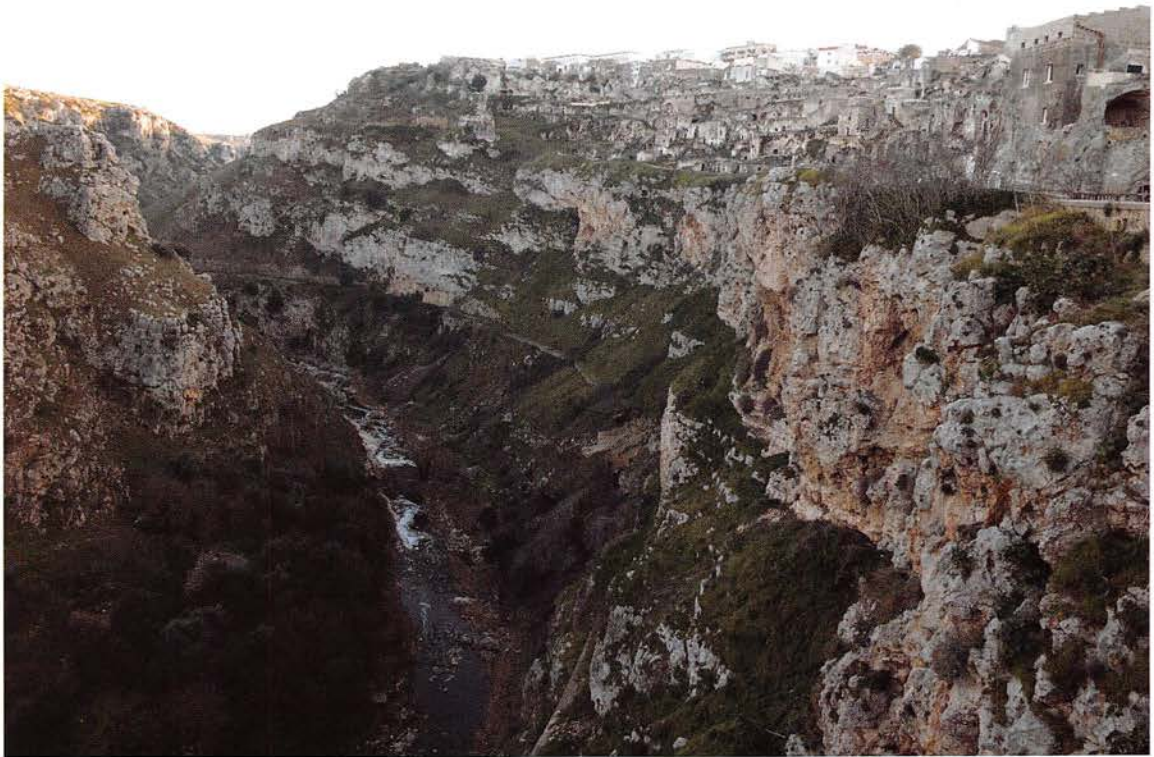
#### 参考文献

- ・ Mario Tommaselli, "Chiese rupestri di Matera e del suo territorio",  
Capone Ed., Lecce, 2002
- ・ Lorenzo Rota, Franco Conese, Mario Tommaselli, "MATERA Storia  
di una città", Ed. BMG Matera, Matera, 1990
- ・ Mario Cresci, "Matera e Provincia", Ente Provinciale Turismo, Matera,  
1989
- ・ Giovanni Ricciardi, "Matera", Altrimedia Ed., Matera, 2003
- ・ Grazia Patricelli, "Otranto e dintorni", Ed. Il Faro, Lecce, 1993
- ・ Grazio Gianfreda, "Guida di Otranto", Ed. del Grifo, Lecce, 1993
- ・ Grazio Gianfreda, "Cattedrale di Otranto in immagini", Ed. del Grifo,  
Lecce, 1995
- ・ "Puglia", Touring Club Italiano, Milano, 1978
- ・ "Basilicata e Calabria", Touring Ed., Milano, 2005
- ・ Espedito Jacovelli, "Guida al Santuario e al Villaggio rupestre della  
Madonna della Scala di Massafra", Tipolito B.M. s.n.c., Massafra(Ta),  
1998
- ・ Franco Noviello, "Gravina Città delle Grotte", Tipografia

Centrostampa, Matera, 2009

- ・ Roberto Caprara, "Palagianello Vecchio, Palagianello, Palagianello",  
Tipografia Piccolo Crispiano, Palagianello, 2010
- ・ Roberto Caprara, Franco Dell' Aquila, "Il villaggio rupestre della  
Gravina Madonna della Scala a Massafra", KIKAU S.p.A, Massafra(Ta)
- ・ Franco dell' Aquila, Aldo Messina, "Le Chiese Rupestri di Puglia e  
Basilicata", Mario Adda Ed., Bari, 1998
- ・ 宮下孝晴, 『徹底イタリア美術案内 5 南イタリア ナポリ・シチ  
リア編』, 美術出版社、東京、2001





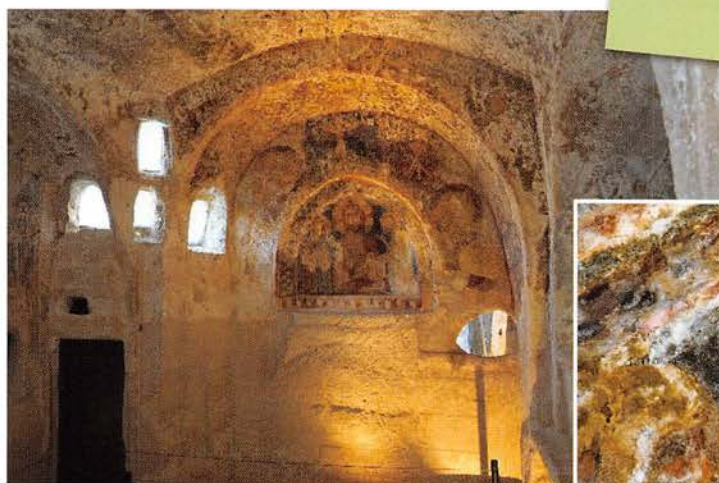
グラヴィーナ峡谷（マテラ）



カヴェオーゾ地区にひとときわ高くそびえる岩山モンテッローネと  
サン・ピエトロ・カヴェオーゾ教会（マテラ）



コンヴィチーニオ・ディ・サントアントーニオから見たグラヴィーナ峡谷とマテラ



サンテリージョ教会の「デエシス」

コンヴィチーニオ・ディ・サントアントーニオ  
(マテラ)



「デエシス」



サンテリージョ教会

「聖(大)アントニウス」 サンタントーニオ教会 (コンヴィンチーニオ・ディ・サントアントーニオ)



1990 年 9 月撮影



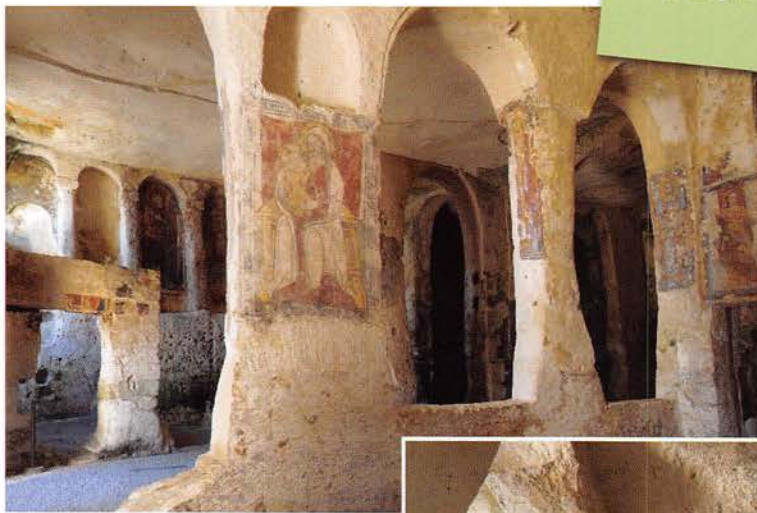
2011 年 6 月撮影



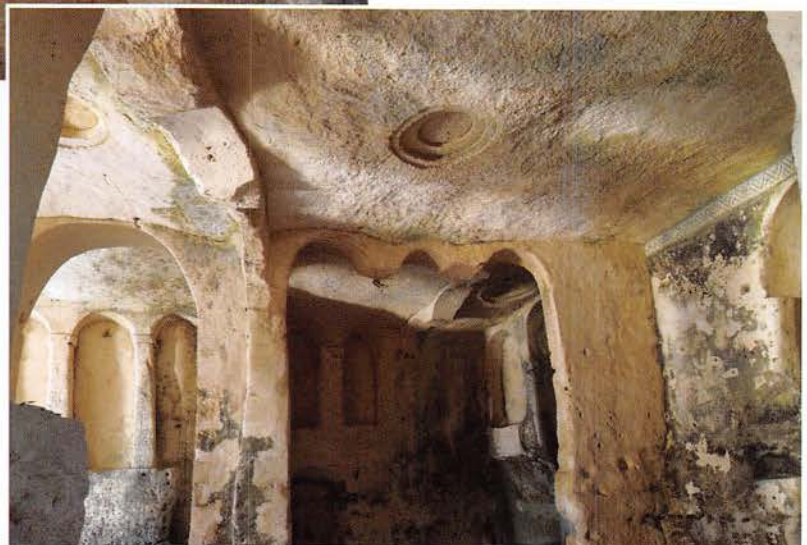
2013 年 9 月撮影



「授乳の聖母」と「大天使ミカエル」



サンタ・ルチア・アッレ・マルヴェ教会  
(マテーラ)





「聖ヴィート」(上層)



「聖ドナート」(上層)

壁画は塗り重ねられ、よく見ると2人の聖人像が重層しているのわかる

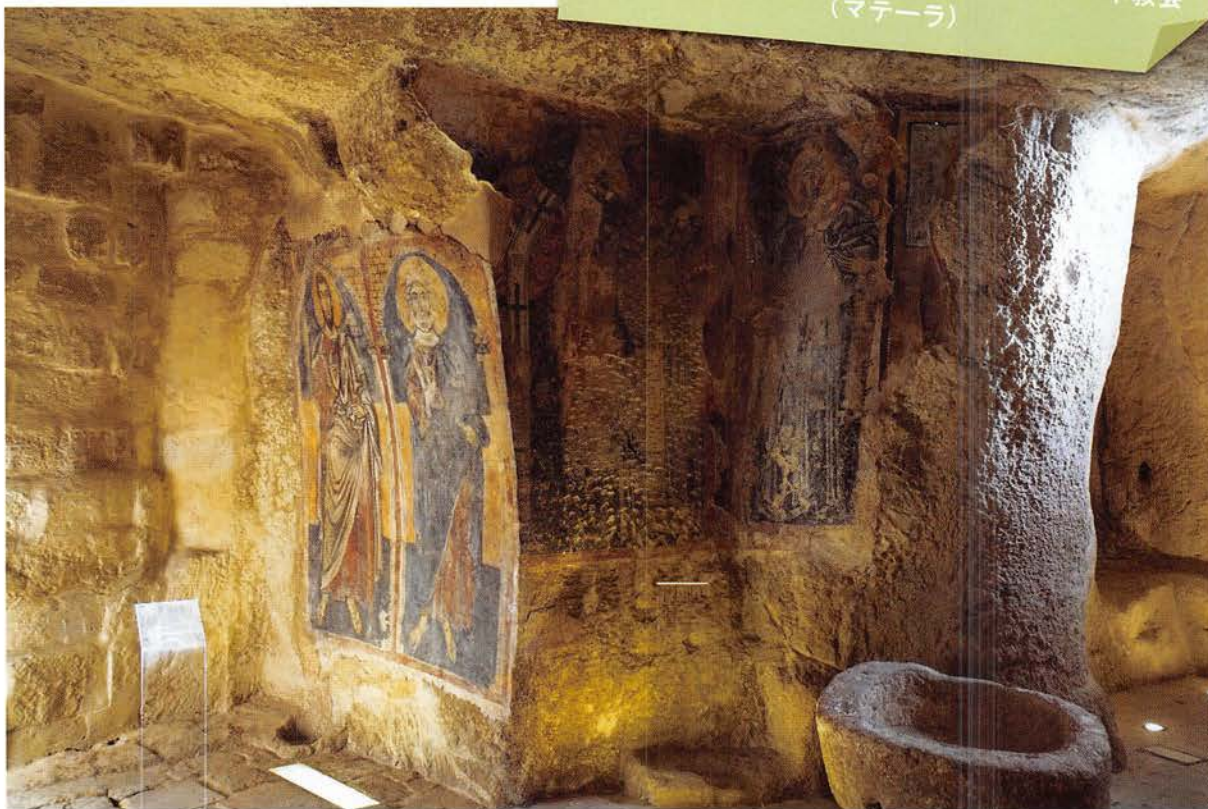


サンタ・ルチア・アッレ・マルヴェ教会入口



近辺に咲き乱れるマルヴェの花

サン・ジョヴァンニ・イン・モッテッローネ教会  
(マテーラ)



「聖ヤコブ (大)」 「聖ペテロ」  
サン・ジョヴァンニ・イン・モンテッローネ教会  
(マテーラ)



「聖ペテロ」 「聖ラザロ」 「聖ヤコブ (大)」  
サン・ヴィート・ヴェッキオ教会  
(グラヴィーナ・イン・プーリア)



「聖母子」 オートラント大聖堂



「聖母子」 マドンナ・デッラ・スカラ聖所記念堂  
(マッサーフラ)



「ブルーナの聖母」 マテラ大聖堂



マテラ大聖堂



マドンナ・デッラ・スカラ聖所記念堂  
(マッサーフラ)

サンタ・マリア・アンヌンツィアータ大聖堂  
(オートラント)



床面モザイク (身廊)



堂内床面を覆い尽くすモザイク「生命の樹」



ファサード



柱頭



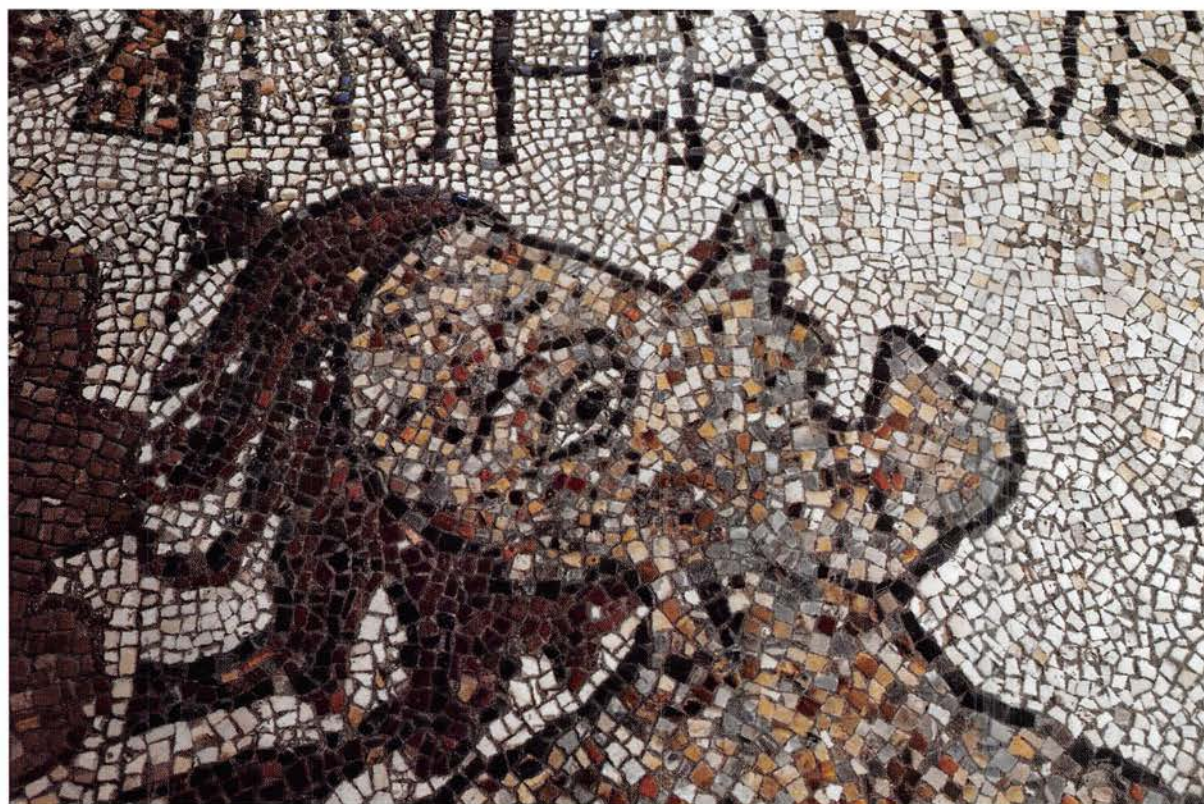
「宇宙の起源」 床面モザイク（内陣）



「闘士」 床面モザイク（身廊）



「地獄」と「サタン」 床面モザイク（左側廊）



「地獄」（部分）



「聖人像」

サンタ・マリア・アンヌンツィアータ大聖堂  
(オートラント)



「聖母子」



「聖 (大) アントニウス」



「聖母子」



時代を異にする壁画断片が残る堂内

サン・ピエトロ教会  
(オートラント)



外観（北側）



「弟子の足を洗うキリスト」(部分)



「弟子の足を洗うキリスト」(上)と「最後の晩餐」(下)



「キリストの洗礼」